鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第１４３号　R元．１２．２４

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目１番１号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

「個」と「集団」

英語科　森　孝志

二〇一九年十二月十日、リチウムイオン二次電池（パソコンやスマートフォン、電気自動車に組み込まれる充電可能な蓄電池）を開発した吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞した。アジア初のノーベル化学賞受賞者である福井謙一氏の孫弟子にあたる。一九八一年に白川英樹が発見した、電気を通すポリアセチレンに注目して、それが二次電池の負極に適していることを見出して以来の長年にわたる努力の成果が認められたものである。彼の言葉に「コツコツと執着心をもって諦めないこと」というのがある。当初はなかなか成果が出ず、会社で部下を減らされるなど、研究は瀬戸際に追い込まれたことなどもあった。そういったことを乗り越えた人だけに、その言葉には重みがある。

三年生のこの時期は、一人一人の心の中に志望に対する「不安」と「焦り」、「迷い」が芽生える頃である。この三つは誰もが持ちうるもので、これらに耐えられずにBプランが頭をもたげてくる時期である。志望を下げて、安心を得ようということのなのだろうが、果たして、それは「今」考えることなのだろうか。大きな壁に直面することは、これからの長い人生の中でもそう多くあることではない。若い時期に勇気をもって、この壁を果敢に乗り越える経験があってもいいのではないだろうか。

現パナソニックの前身である松下電器の創始者、松下幸之助氏は、次のように言っている。「努力をしていてもなかなか成果が現れてこない。いらいらがつのる。投げ出したくなってくる。しかし、そんな時こそ心を乱さず、地に足をつけて努力を重ねたい。焦らず、あわてず、あきらめず―仕事でも人生でも一歩一歩着実な歩みを心がけたい。」

焦らず―過去の失敗を引きずらず、今、ここに集中しよう。

あわてず―他人の批判（判定など）に惑わされず、自分の力を信じよう。

あきらめず―逆境を克服し、自分で選んだ道を歩み続よう。

「敵」をよく知ることは大切だが、最終的な「敵」は自分の中にあることを肝に銘じて、それぞれ自分の目標に向かって「ただひたすらに己を彫む」鶴丸生であってほしい。

二〇一九年はラグビーワールドカップ日本大会（W杯）が開催され、日本各地でラグビー旋風が巻き起こった。ここ鹿児島市も、優勝した南アフリカ代表チームが事前キャンプを行ったこともあり、その例外ではなかった。大会終了後、シヤ・コリシ主将による感謝を伝えるメッセージ動画を鹿児島市のHPで見た人も多かったのでないだろうか。W杯の盛り上がりに関して、組織委員会の嶋津昭事務総長のコメントに「ラグビーの持つ『品位』『情熱』『結束』『規律』『尊重』という五つの価値が日本人の心に響いたことによるのではないでしょうか。」とあった。それを象徴するがごとく、日本代表のスローガン「ONE TEAM（ワンチーム）」が、2019新語・流行語大賞の年間大賞に選ばれた。日本人が重きを置く「礼節」を外国人が尊重しながら異文化を楽しむことで、日本が「ONE TEAM」となった感もある。

さて、三学年もONE TEAMとして、これまでさまざま体育的行事、文化的行事に取り組み、この学び舎でお互いに成長してきた。創立百二十五周年記念第七十回体育祭では、過去二年間の雪辱を果たすべく、一・二年生は元より見る者すべてを圧倒する結束力を発揮し、優勝を成し遂げた。七十一回生の一体感を見事に具現化する行事であった。

いよいよ「かへらざる三年」の集大成の時が近づいてきた。ONE TEAMとして、自分が「引っ張ってもらう」側であるだけではなく、自分から「与える」側でもあると意識し、影響を受け・与える関係を育みながら、卒業までの日々を切磋琢磨し合う仲間であってほしい。

年明けのチャレンジへ向けて、納得のいく戦いをして、学び舎を去る日には「後悔などあろうはずがありません。」という言葉を発してくれることを期待したい。

クラスの団結が光った
～後期クラスマッチ開催～

十二月六日、一、二年生の後期クラスマッチが開催されました。バレーボール、バスケットボール、サッカー、ドッジボール、卓球の五種目に分かれて、生徒たちはクラスの威信をかけて競技しました。このクラスマッチを通して、よりクラスの団結が深まったようです。（結果は次の通り）

男子バレー
1位　15R　2位　24R　3位　26R
女子バレー
1位　12RA　2位　15R　3位　11R
男子バスケット
1位　28R　2位　23R　3位　24R
女子バスケット
1位　11R　2位　14RA　3位　22R
男子サッカー
1位　28R　2位　21R　3位　26R
女子子ドッジボール
1位　27R　2位　21RB　3位　26R
卓球
1位　16R　2位　12R　3位　28R
総合成績
1位　28R　2位　15R　3位　21R

白熱したクラスマッチの様子

鶴丸高校のDNA

生徒指導主任　岩田　裕児

以前私の同級生が、ある小さな会社に転職をする際に、雑談の中で「〇〇教授のDNAを持った人が欲しい。」と言われたと話した。ここでいうDNAとは大学の講座等を通して培われたすべてのものである。特に科学分野では、研究の仕方や考え方は、ゼミで師事した教授の影響を受けることは多いようである。雇用する側からすると、異なる思考も必要であろうが、同じベクトルであると物事がスムーズに進む面もあるので、その同級生が言われたこともわかる気がする。同じ空間で生活をしていると、行動はもちろんのこと習慣や思考も似てくるということは、発達した生物の世界では特にあてはまる。単純な例を挙げると話し方も似てくるし、歩くスピードも周りのスピードと同じようになってくる。さらには、あくびをしている様子を見ると自然とあくびがでてしまう。これは、相手に対する共感で、親しければ親しいほど伝染すると言われている。最近では、飼い犬でさえ飼い主に似てくるという研究データも示されている。とすれば、鶴丸高校での生活習慣が、意識せずとも自然と身についているということになる。生徒との会話の中でも「〇〇君のこつこつと学習している姿はすごいです。」という話を耳にする。いくら目標の大学への強い気持ちがあっても、学習を継続するのは大変である。その姿を目にし、無意識のうちに同じ行動をしているのかもしれない。一人よりも多くの生徒が集まる文化館での学習の方が集中力が増す、と感じる生徒が多いのもうなずける。

私が凜とした印象を受ける鶴丸生の一コマに脱靴場でコートを脱ぐ光景がある。「コートは建物に入る際に脱ぐのは当たり前。」という人もいるだろうが、いろいろな年代の人や使用頻度によって考えも違ってくるだろう。最近では、店内でマフラーをしながら食事をする姿も見かけるので、当たり前という感覚はなくなりつつあるのかもしれない。しかし、鶴丸でのこの習慣がどう変化するにしろ、体の片隅に残してほしいと思っている。鶴丸高校の級友の多くの見習うべき行動や、昔はそうだったという品格あるマナーをDNAとして残しつつ、時代の変化に対応できるように「形質転換」していくことを望んでいる。

私は、出張や旅行で東京に行った際に、「この大勢の人たちのなかに鹿児島県出身者もいるんだよな。」と思うことがある。鹿児島県出身者に目印でもついていたら「こんなにいるんだ。」と驚くかもしれない。その目印のついた人を見ていると、「あの人はひょっとして同級生？」とか「あれ？さっき鹿児島にいたのに。」と思うだろう。そんな目印なんてあるはずはないだろうが、あったら面白い。そして、思いもよらない出来事を想像する。朝のラッシュ時で慌ただしい中、高齢の女性が重い荷物を持ち、駅の階段をゆっくり上っている。

『おばあさん。荷物を持ちましょうか。』と私が声をかけると同時にある青年も女性に声をかけてくる。

「私も手伝いますよ。人が困っているときはお互い様ですもんね。」

『都会は忙しくて他人にかまってられないでしょ。』

「そうですね。でも私は地方出身で校是がFor Othersだったので。」

『えっ。』

こんなことを思い浮かべながら鶴丸高校のDNAが活躍することを楽しみにしている。

令和元年度
緑化コンクール結果発表

各クラスの緑化委員が予算内で自分の好きな花を購入し、校内の緑化活動に取り組む緑化コンクールが行われました。各クラス工夫をして自分たちのプランターに苗を植え、昼休みや放課後を利用し、水やりや草取りなど一生懸命世話をしてくれました。コンクールの結果は次の通りです。

1年生の部
1位　18R　2位　12R　3位　17R
2年生の部
1位　25R　2位　28R　3位　27R
3年生の部
1位　34R　2位　36R　3位　38R

シンデレラ階段を彩る
各クラスのプランター

1月の行事予定

		1　月		食堂
1	㊌	元日 初日を拝む会	冬季休業日	×
2	木			×
3	金			×
4	㊏	3年センタープレ		×
5	㊐	3年センタープレ		×
6	月	3年センタープレ		×
7	火	3年センタープレ		×
8	水	授業開始日		○
9	木	1･2年実力考査(1日目) 3年月曜日の授業		○
10	金	1･2年実力考査(2日目) 学校安全の日		○
11	㊏	バスケットボール県新人戦会場		×
12	㊐			×
13	㊊	成人の日		×
14	火	スクールカウンセリング	教育相談（平常授業）	○
15	水			○
16	木			○
17	金			○
18	㊏	センター試験(1日目) 悠学講座⑦		×
19	㊐	センター試験(2日目)		×
20	月	学年朝会 センター自己採点		○
21	火	3年特別授業開始		○
22	水	1･2年進路講演会 (1～6限45分,7限50分) 1,5,6,4,2,3,7の授業		○
23	木			○
24	金			○
25	㊏	2年進研模試 1年学研ハイレベル模試		×
26	㊐	2年進研模試		×
27	月	全校朝会 スクールカウンセリング		○
28	火	スクールカウンセリング		○
29	水			○
30	木			○
31	金			○